

万全の状態で、金メダルへ

蒲生和麻さんは、2021 年の第 1 回世界ろう者柔道選手権大会では銀メダル、2024 年の第 2 回大会では銅メダルを獲得するという、輝かしい成績を収めています。一方で、2022 年にブラジルで開催されたデフリンピックでは、ケガのため思うような試合ができず、悔しい経験もしました。

これまでデフ柔道で数々の経験を重ねてこられた蒲生さんに、東京 2025 デフリンピックへの思いをお伺いしました。



蒲生 和麻(がもう かずま)
1994 年福島県生まれ、東京都在住
東日本旅客鉄道株式会社 勤務
東日本旅客鉄道株式会社柔道部 所属

ー東京 2025 デフリンピック 柔道男子 73kg 級 日本代表内定、おめでとうございます。

まず、柔道を始めた時期や、きっかけについて教えてください。

ありがとうございます。

柔道は、小学 4 年生のとき、母に勧められて始めました。

体力がありあまる子どもだったので（笑）、その体力を柔道に向けてはどうかということがきっかけでした。

ーデフ柔道ならではのルールや特徴があれば教えてください。また、競技としての魅力や見どころはどこにあると思いますか。

ルールは通常の柔道と同じです。違いは、審判の「待て」の合図がきこえないため、直接肩などをたたいて知らせてくれることです。

セコンドに付く監督やコーチがきこえる人なので、手話が使えなくても身振りやアイコンタクトでコミュニケーションを取るような場面があります。これはデフ柔道の見どころだと思いますし、注目してほしいです。



ーデフリンピックを目指そうと思ったきっかけは何でしたか。

高校生のとき、インターハイ出場を目指していましたが、予選で敗退し、悔いがありました。このまま柔道人生が終わってしまうのかと思っていたところ、大学入学をきっかけに、デフリンピックの存在を知りました。

高校生までは、きこえる人と一緒に柔道をしていましたが、デフ柔道は自分にしかできないことだと、デフリンピック出場を目指し、

本格的にデフ柔道に取り組み始めました。

大学2年生のとき、初めての国際大会となる「アジア太平洋ろう者競技大会」に出場しましたが、納得のいく結果は残せませんでした。

このとき、デフ柔道の競技力の高さを痛感し、「このままではデフリンピックに出場できない」と危機感を抱き、そこから両親に恩返しをしたい一心で、死に物狂いで練習に励みました。

ーあなたにとって、デフリンピックとはなんですか。

きこえる人はもちろんですが、特にきこえない子どもたちに、障がいがあることで理不尽な思いをすることもあるかもしれないけれど、前向きに様々なことに挑戦し続ければ、必ず良いことが待っている。そのことを感じてもらえる場がデフリンピックだと思っています。



ー競技を続ける中で、難しさや苦労を感じたことがあれば教えてください。

2022年にブラジルで開催された、第24回夏季デフリンピック競技大会（於：ブラジル カシアス・ド・スル）では、大会の3週間前、練習中に左膝の靱帯を断裂してしまいました。本来ならすぐに手術が必要でしたが、デフリンピックは4年に一度の大会なので、どうし

でも出場したく、手術を延期しました。

しかし現実は甘くなく、結果はメダルに届かず、帰国後すぐに手術を受けました。

手術後のリハビリは、ちょうどコロナ禍と重なり、支えてくれる人もおらず、大変な日々が続きました。約1年間はリハビリ生活で、筋力を戻すのに苦勞しました。本格的に練習を再開できたのは手術から1年半後で、その間は柔道ができない齒がゆい時間を過ごしていました。



一柔道といえば「必殺技」を思い浮かべる方も多いと思いますが、蒲生さんの得意技は何ですか？ その技の魅力や、こだわっているポイントがあれば教えてください。

「内股」です。内股にこだわる理由が、中学1年のときに出会った恩師にその技を教えてもらいました。そして、内股ひとつで東北大会に出場することができました。

ただ、デフリンピックでは一発で決めるのは難しいため、最終的に内股で決めることを目標にしているので、ぜひ、注目して見てほしいです。

一今回の夏季大会は、デフリンピック初回大会から 100 周年の節目

であり、日本では初開催となります。さらに、地元・福島県ではサッカー競技が行われます。こうした記念大会に出場されること、そして地元でも競技が行われることについて、どのように感じていますか。

柔道の会場は東京ですが、サッカー競技には尊敬する会社の先輩である江島由高選手^{えじまよしとか}が代表に選ばれています。先輩と共にデフリンピックを盛り上げていければと思っております。そして、福島の皆さんにデフリンピックの魅力をぜひ感じていただきたいです。

ーデフリンピック本番に向けての意気込みや目標などをお聞かせください。

前回のデフリンピックでは5位で、メダルには届きませんでした。

今回のデフリンピックでは、金メダルを目指すのはもちろん、デフリンピック全体、そしてデフ柔道を多くの方に応援していただけるよう、全力で臨みます。

ー蒲生さんは、2022年5月にブラジルで開催された「第24回夏季デフリンピック競技大会」にも出場されていますが、前回大会を振り返って、どのようなご感想をお持ちでしょうか。また、世界のレベルや現地の雰囲気についてもお聞かせください。



率直に申し上げると、前回の経験は苦い思い出です。

ケガのため思うように動けず、悔しい思いをしました。だからこそ、今回は万全の状態で挑みたいと思っています。

2021年の第1回ろう者世界柔道選手権大会（於：フランス）では決勝まで進みましたが、惜しくも敗れてしまいました。その悔しさもあって、続くデフリンピックでは、絶対に金メダルを獲りたいという強い思いで臨みました。しかし、柔道の神様はそんなに甘くはありませんでした。

さらに、前回のデフリンピックはコロナ禍の影響で選手団だけの参加となり、応援もなく孤独な戦いとなりました。だからこそ、今回は応援団の皆さんと一緒に戦えることを心から願っています。

ーデフリンピックだけでなく、これまでに出場された他の国際大会についても伺いたいのですが、特に印象に残っている大会や試合があれば、ぜひ教えてください。

2021 年第 1 回世界ろう者柔道選手権大会の 2 回戦で、2017 年のデフリンピック銀メダリストと対戦しました。

実力差は覚悟していましたが、試合開始で組んだ瞬間、「無理だ、勝てない」と思ってしまいました。

それでも、フランスまで同行してくれた監督やコーチへの恩返し of 気持ちから、必死に戦いました。延長戦までもつれ込む激闘の末、最後まで諦めずに挑み、勝つことができた試合です。



ーここからは、パーソナルな質問に入ります。

まず、休日の過ごし方について教えてください。

山登りが趣味で、夏は地元・福島 of 磐梯山や安達太良山に登りに帰ってきます。

この前も、2 泊 3 日でテントを持って山に入りました。

地元の山だけでなく、特に好きなのが北アルプスの森林稜線を歩くことです。

山で過ごす時間は、仕事や柔道を忘れて非日常を味わえる大切な時間です。



山登りで、心も体もリフレッシュ

ー試合後の「ご褒美メシ」はありますか？

「サーモン」です！

お寿司のサーモンを15皿は食べます。周りにはあきれていますが(笑)。

美味しいだけでなく、タンパク質も豊富で、栄養面でも優れているので、メリットだらけです。

ー最後に、応援してくださる皆さんへメッセージをお願いします。

金メダルはもちろん、皆さんに感動を届け、応援して良かったと思っていただけるような試合をしたいです。

応援、よろしくお願いします！